

加藤家文書目録解題

1. 樋場と加藤家

本資料群は点数約 3,800、上越市立高田図書館が所蔵している。加藤家は樋場新田村（現上越市大字樋場）の庄屋を勤め、安永 6 年（1777）3 月、高田藩から大肝煎に任ぜられ、幕末に至る有力農民である。

樋場は関川と櫛池川の合流点近くにあり、明治 44 年（1911）作製の『新道村史』では、「樋場は新町より分かれて子安大堰の堰番として移住…」「（加藤家は）当村（樋場新田村）の草創にして庄屋仁左衛門の先祖なり」と記している。これらから、樋場の語源は、別所川から取水した大道用水を櫛池川に掛け渡した大きな掛樋によってこの地へ導いたところからきている。

加藤家は、長年にわたり庄屋役・大肝煎役を務め、その出精ぶりから文化期に触元役、郷士にも任ぜられた。安政 2 年（1855）に大肝煎らが高田藩に御用船を献納したとき、加藤与惣左衛門は一人で百石積 1 艘に用具一式を添えて献納している。明治期には自由民権運動や県会でも活躍した加藤貞盟が現れている。

2. 資料群の概要

年代的な範囲は、慶長 13 年（1608）の堀監物の定書（写）を最古とし、昭和 20 年代までに及び、近世文書が過半を占める。近世では上記の写しを除いて、天和・貞享期から始まり、多くは寛政期以降である。内容的な特色を列挙する。

- 組・郷・郡内の支配関係、石高等…文化 6 年（1809）の村替関係 高割帳
- 大道用水関係…大道用水全般の史料及び大道郷の開発関係
- 関川・荒川橋（稲田橋）等の国役や普請関係
- 貢租関係…元禄～享保、宝暦～万延の累年の年貢割付他
- 土地集積、地主経営関係…小作帳 質地証文等
- 農村での諸職業関係…「諸商人売買書上帳」他
- 絵図等…耕地図、用水諸施設図、新田図、川欠絵図他
- 家族生活関係…家督相続、婚姻他

これら地方文書に加えて田端町関係の史料が多く見られる。これが加藤家文書に含まれる理由は不明であるが、高田町の有力町人で、周辺農村に広大な土地を集積していた下田端町（佐藤）安兵衛が、在地の地主であった加藤家と深いつながりをもって活動していたことによると考えられる。

近代では、地租改正・稲田校の設立と運営・第二次大戦後の農地改革関係がまとまっている。関川東部の農村研究に有用な資料群といえる。

越後国頸城郡大道郷樋場新田村申御成箇割附

一 三六拾五石七斗半合
可九十九石八斗二升二合

其後

三拾六石八斗半合 四斗

公五斗七升
九斗七升二合
拾石五斗七升二合
拾石八斗

拾石八斗半合
拾石八斗半合

三拾六石八斗半合 四斗

七斗半合
拾石六斗九升九合
七斗半合

拾石七斗半合
拾石九斗七升二合

一 三六拾五石七斗半合
可九十九石八斗二升二合

三斗
八斗八升八合
八斗八升八合
七斗八合
九斗八合

拾石八斗半合
可九十九石八斗二升二合

外

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

一 拾石八斗半合
拾石八斗半合

拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合

拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合

拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合

拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合

拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合
拾石八斗半合

石河庄

「越後国頸城郡大道郷樋場新田村申御成箇割附」
(宝永元年 10月)
庄屋百姓 ← 長谷庄兵衛